

University of
the Sacred Heart, Tokyo

カトリックは日本社会の

元老院

だつた！



Catholicism as
an open window
of Japanese
society

聖心女子大学4号館
聖心グローバルプラザ1階 BE*hive

²⁰²⁵ 10/14(火) ²⁰²⁶ 4/21(火) 開催時間 | 10:00~17:00
休館日 | 日曜日・祝日

主催：聖心女子大学グローバル共生研究所／同キリスト教文化研究所 協力：聖心会

入場
無料

カトリックは日本社会の窓だった！

2025 10/14(火) 2026 4/21(火)

幕末の開国と明治維新に伴って、日本社会にはいくつもの「窓」が開かれ、法・社会制度や技術、学問、芸術文化などがもたらされ、人びとの交流が始まりました。本展では、その中でも一つの独特的な「窓」となって、多くの人びとが行き来し、日本社会に新しい風を送り込み、また外国にも影響を与えることになった「カトリック」に焦点を合わせます。カトリックの大学である本学のルーツにつながる歴史を多くの皆さんに知っていただきたいと思っています。

第一章 「信徒発見」の衝撃

江戸時代250年に渡る禁教を乗り越えて信仰を守り伝えた潜伏キリストianの存在は世界に大きな衝撃を伝え、日本でも固く閉じられていたキリスト教への扉を開けることになりました。

第二章 シスターという生き方

結婚することも子どもを持つこともなく、生涯を神と人間に奉仕する女性修道者（シスター）という存在は、それまでの日本人が全く知らない新しい人生への窓となりました。

第三章 カトリック教育の果実

クリスチヤンが少数の日本のカトリック学校は、布教よりも、教育を通して、キリストの教えに従った生き方で社会を照らす人びとを送り出しました。

第四章 苦難の中の希望

日本が戦争へ歩んでいった時代、キリスト教は欧米の宗教として再び苦難を経験しました。暗闇の中でも、カトリックは正義や平和を求める人びとに希望の光が射す窓の一つでした。

次期展示予告：企画展「宗教と共生」

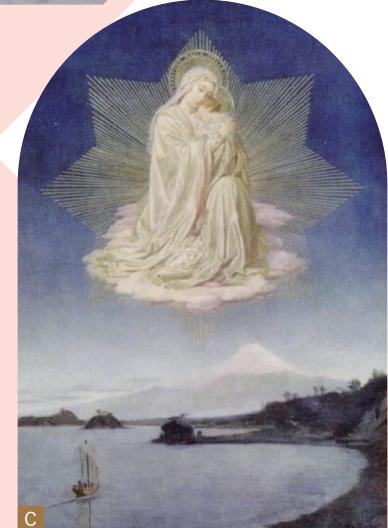
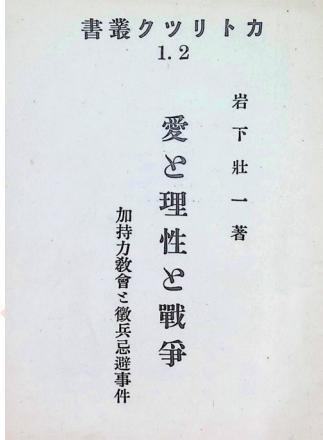
第2期 インドネシアにおける宗教と共生 第3期 オランダにおける宗教と移民
2026年5月13日(水)～10月19日(月) 2026年11月～2027年3月
※テーマおよび会期は変更となる可能性があります。



A A キリスト信徒発見100周年記念碑(1965年)／個人撮影

B 岩下壯一著『愛と理性と戦争』(1926年刊)／東京大司教区蔵

B



C 聖画「暁の星の聖母と富士山」(1917年)／不二聖心女子学院アーカイブズ蔵

D 山本信次郎(1877年～1942年)／パブリックドメイン



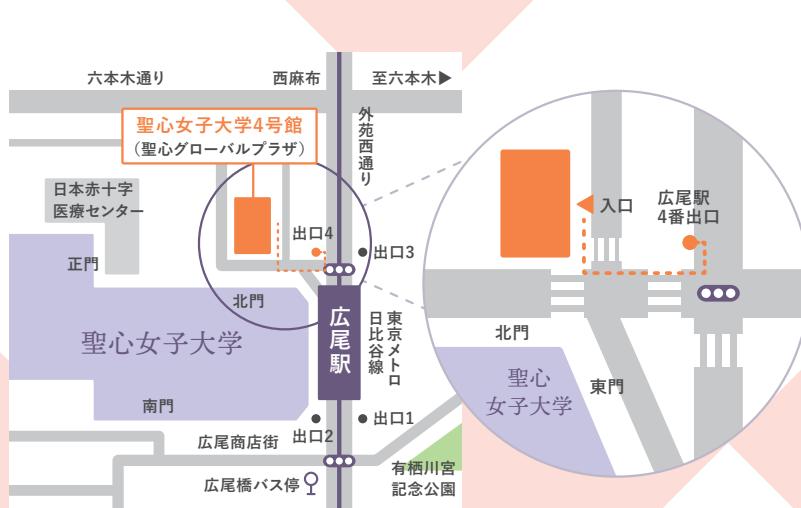
E 聖心会シスター岩下亀代子(右端)1976年金祝の祝にて)／不二聖心女子学院アーカイブズ蔵

同時開催展示：特別展示室

「岩下壯一という多面体～20世紀のフランシスコ・ザビエル～」
開催中～2025年12月23日(火)

常設展「武器をアートに」

聖心女子大学創立75周年記念常設展
「これまでの歩み、これからの道」



BE*hive

聖心女子大学
グローバル共生研究所
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHISF)

聖心女子大学4号館

聖心グローバルプラザ1階 BE*hive

<https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/>

〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-2-24

東京メトロ日比谷線広尾駅 4番出口徒歩1分

開催時間／10:00～17:00 休館日／日曜日・祝日

03-3407-5811 jimu-kyosei@u-sacred-heart.ac.jp



HP



Facebook



Instagram